

ジェンダー情報

【国会】参議院法務委員会で糸数議員が男女格差について質問 11月24日

参議院法務委員会で11月24日、糸数慶子議員（沖縄の風）が「世界の女性議員比率は過去20年で倍増し、2割を超えているが、列国議会同盟（IPU）などによると、今年11月1日現在の下院女性議員比率のランキングでは、日本は9.3%で193カ国中159位、OECD加盟国34カ国では最下位という不名誉な状況だ」と述べ、クオータ制の導入国数を問うた。大塚幸寛男女共同参画担当審議官は、「本年4月現在、クオータ制の導入国は111カ国。うち議席割り当てを導入している国は24カ国、候補者割り当てを導入している国は54カ国、政党の自主的なクオータ制を導入している国は53カ国と承知している」と答弁した。

自民党は16日、クオータ制導入に向けた政治分野の男女共同参画推進法案を、「女性の社会進出で社会全体が豊かになっているとは思えない」（西田昌司議員）や、「法律を作ることではかえって男女の対立が生じてしまう」（山谷えり子議員）などの意見により見送っている。糸数議員は、これらの意見は事実誤認であると批判。クオータ制導入の法案成立を求めた。

【NGO】「慰安婦」への謝罪勧告に不服の団体、女性差別撤廃委員長解任を求め署名 11月16日

「慰安婦の真実国民運動」（加瀬英明代表）は、国連・女性差別撤廃委員会が日本政府に対し元「慰安婦」に謝罪と賠償を行なうよう総括所見を公表したことを理由に、林陽子委員長の「即刻解任」を求める署名を11月16日、自民党の片山さつき参議院議員同席のもと外務省女性参画推進室長に手渡した。

同団体は「慰安婦」問題に関する総括所見を解任の理由としているが、国連の委員は出身国報告書審査には関われないことになっており、林委員長も日本政府報告書審査には一切関わっていない。片山議員はそのことを承知で林委員長の解任を求めており、極めて不当である。24日、外務省に経緯を尋ねると、「片山議員から、女性参画推進室長が新しく替わられたので挨拶をしたいということだったので議員会館に伺ったところ、署名を渡された」と困惑していた。

【インフォメーション】

◆12月12日（月）18：30～20：30 ▼台湾におけるジェンダー主流化と女性運動の展開 ▼講師：福永玄弥（日本学術振興会特別研究員） ▼会場：お茶の水女子大学本館1階カンファレンスルーム（地下鉄茗荷谷駅） ▼参加費：500円 ▼申込み：アジア女性資料センター 画03-3780-5245 画03-3463-9752 画ajwrc@ajwrc.org

協力/mネット・民法改正情報ネットワーク

見出しが伝えるメッセージ

田中優子

本誌の今年11月11日号の記事「武器見本市」に転進する大学」というタイトルの横に、「早稲田や法政、横浜国立、東海など9校がブース出展」と書いてあるのは驚いた。まるでこれらの大学が防衛省の研究費に応募して軍事研究に「転進」しているかのような見出しなのである。筆者と編集部が、読者をそのような「読み」に誘導したかったのであれば、それは大問題である。なぜなら、防衛省の競争的資金をどう扱うか、多くの大学は真剣に向き合い、次々と「軍事研究をしない」という学内合意を形成し、声明を出し始めているからである。記事の最後にはその事例として、新潟大学と京都大学のみが示されている。

記事を読むと、「国際航空宇宙展」のなか「アカデミックゾーン」もあった、というだけの話だ。そのことと大学の軍事研究とは何の関係もないのだが、まるで出展校が軍事研究をしているような印象を与えている。法政大学も東海大学も航空操縦学専攻をもつていて、卒業生は航空会社に就職している。それでここにブースを出している。まさか飛行機操縦すなわち軍事、と考えているわけではないだろう。

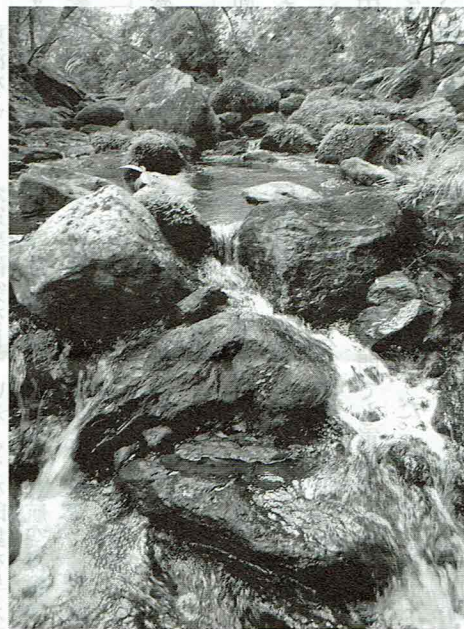
法政大学は今年度、軍事研究に応募しない旨の最終文書案を学部教授会と協議しながら練っている。防衛省の研究費の扱い方で難しいのは民間でも軍事でも使用できる「デュアルユース」だ。インターネットもロボットもそういう性質のものだ。しかし防衛省の説明文書では、それが私たちの考えるようなデュアルユースでないことがわかる。「得られた成果については、防衛省が行うフェーズで活用することに加え、デュアルユースとして、委託先を通じて民生分野で活用されることを期待しています」とある。つまり研究結果はあくまで防衛省のもので、それを民間が使うかどうかはこちらの問題ではない、と言っているのである。つまり民間使用可能なものでそれを目的に応募する、という応募理由は成り立たない。防衛省の目的は明確だ。それを承知の上で防衛省の研究費に応募する大学と、それをしていない大学とがある。本当に大学の軍事研究を憂慮するのであれば、メディアはそれを区別して書くべきだろう。

『週刊金曜日』は多くの大学教職員を読者にもっている。大学を十把ひとからげにすることの認識の甘さを私も編集委員として問われ、恥ずかしかった。

風速計



# 沖縄・米軍北部訓練場 上陸作戦の「歩行訓練ルート」建設



やんばるの自然の宝庫、宇嘉川の溪流は素晴らしい＝2016年11月17日（撮影／新藤健一）



高江の森で羽化した直後のリュウキュウウラボシジミ（オス）。おしりについている水滴はオシッコ＝2016年10月30日（撮影／宮城秋乃）

## で進む

琉球大学の専門家の1999年調査によると、ヘリパッド移設予定地は極めて貴重な生態系が分布している。世界で、「ここのやんばる」にしか生息しない22種の固有種と126種の絶滅危惧種および貴重種を含む1313種を確認しているのだ。

そのやんばるの森から流れ出す宇嘉川の河口からG地区まで延びる尾根にトレーニング用の道（歩行訓練ルート）が造られている。「離島防衛」と称した上陸作戦訓練に使われる危険性があるという。

ハブ除けに長靴を履いてヘリパッド工事が強行されている在沖米

H地区のヘリパッドにつながる細い林道は  
工事用砂利置き場になった

軍北部訓練場と環境汚染が心配さ  
れる秘境、宇嘉川流域に向かう。  
途中の農道にはヤンバルクイナの  
足跡がくつきり残っていた。

### 絶滅危惧種の宝庫

険しい獣道をブッシュをかき分  
けると、木立の間に視界が開け  
た。河口から2キロメートル廻  
ると、宇嘉川の流れば急流となり、  
岩にぶつかった水が白い泡に変わ  
る。清流はどこまでも透き通り、  
転石にはまるでスポンジのように  
苔がびっしりとついている。川辺  
には琉球諸島固有変種で黄色い花  
をつけたリュウキュウツワブキが  
揺れる。

川底には小枝や落ち葉が溜まり  
小さなカニがうごめいている。傍  
らに全長50センチメートルほどの  
ウナギがゆったり泳いでいた。谷  
間を吹き抜けるそよ風に鏡のよう  
な水溜りが波紋を小刻みに描く。  
その波間に青空を背景にした濃い  
緑の木陰が揺れる。静寂の宇嘉川  
には蝶が舞う。真っ白いリュウキ  
ユウウラボシシジミは稀少種だ。



G地区から宇嘉川河口までの歩行訓練ルート  
を歩いた。工事は、機動隊と防衛局職員がガ  
ード。ルートには橋を架け、階段まで作る計画だ  
=2016年11月5日



G地区への歩行訓練ルートを造るため、宇嘉川  
河口にヘリで搬入された工事用資材。海兵隊は  
河口から訓練道に登る=2016年11月14日



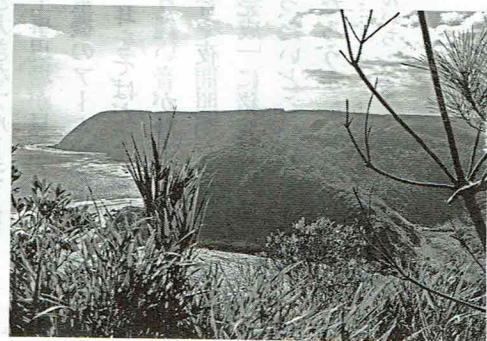
工事の伐採で引き裂かれた立木。伐  
採は沖縄防衛局によると5000本。  
だが市民団体は5万本を超えるとい  
う=2016年11月

# 高江・ヘリパッド建設強行 基地強化と環境破壊

沖縄・東村高江周辺の米軍ヘリパッド建設問題で、北部訓練場内にある国頭村安波のオスプレイ用ヘリパッド「G地区」と宇嘉川河口部を結ぶ歩行訓練ルートの工事が進んでいる。11月中旬、貴重な自然が残る現地を歩いた。

新藤 健一

宇嘉川河口から100メートルを超す絶壁を登  
ると西側になだらかな台地が広がる北部訓練  
場=2016年11月17日 (撮影/新藤健一)



エサやミネラルを必要とする。この様な状況で、真の白のりエサやミネラルを必要とする。樹林に囲まれたH地区のオスプレイ・ヘリパッド工事現場。2016年11月16日(撮影/新藤健一)

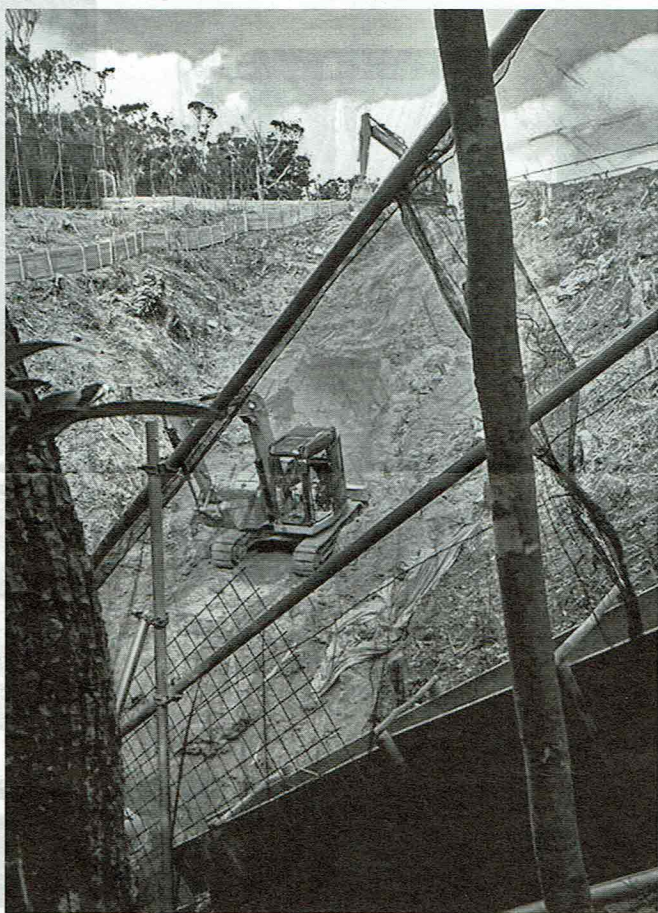


11月、歩行ルートを歩いた関係者は、建設を強行する沖縄防衛局(中嶋浩一郎局長)にこう憤る。

「工事は既に始まっていて機動隊と防衛局職員が警備していた。ルートの幅は3メートルで長さが2570メートル。面積に直せば約5592平方メートルで、4694本が伐採される。工事は、沖縄防衛局が県に提出した環境影響評価図書に記載されていないが、ルートには橋が架かり、足場の悪い斜面には階段まで作るという。

アメリカのためだからと、憲法も人権も法律も、すべてが適用外。県外から500人を超す機

H地区のオスプレイ・ヘリパッド工事現場では緑の土地が重機でえぐられ、巨大な穴が掘られた=2016年11月



動隊を呼び寄せ、市民に身体と言葉の暴力を振るい、環境に配慮する事なく、乱暴に自然破壊を強行しても構わないというのか」

沖縄県は11月4日、同ルートは環境影響評価図書に記載がない「新たな工事」だとして反対する考えを文書で伝えたが、無視された。

### SACCO合意の狙い

安倍晋三政権はなぜ沖縄県を騙してまで工事を強行するのだろうか。その理由を『沖縄はもうだまされない』(高文研)の著者の1人で、建築家の真喜志好一氏は、20

年前の日米特別行動委員会(SACO)合意が原因だと指摘する。

「北部訓練場と接していた安波訓練場は1998年に返還されましたが、(北部訓練場から海への出入のための土地及び水域が提供された後)が返還条件でした。このため、宇嘉川河口や周辺海域が提供されていたのです。」

北部訓練場の過半の返還には六つのヘリパッド新設や歩行訓練ルートの整備が条件。米国が考えているのは、21世紀型の戦略に対応するオスプレイや最新鋭の支援戦闘機F35の配備を前提に、新基地建设(辺野古沖埋め立て)と北部訓練場の再編強化です。基地負担軽減ではありません」

### 昼夜突貫で工事強行

H地区ヘリパッドを撮影するため、密林に大きなハシゴを立てかけて覗き込む。イタジイの樹林帯の先に赤土と大きなブルーシートで覆われた工事現場が見えた。オレンジ色の重機のアームが上下に揺れている。耳をそばだてると「ゴォー」という鈍い音が静寂の森に響いた。騒音や夜間照明をまき散らし「年内完成」に猪突猛進するこの国はいったいどこへいこうとしているのだろうか。

しんどう けんいち・フォトジャーナリスト